

(様式)

平成26年度 上那賀中学校「学力向上実行プラン」

上那賀中学校長 三浦 恵子 印

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職 名 ・ 校務等担当名	氏 名
管理職	校長・総括	三浦 恵子
	教頭・総括補佐	長尾 彰
学力向上推進員	教諭・研修主任・2年生主任	片山 純州
委員	教諭・教務・進学主任	本田 晴啓
	教諭・1年生主任	矢野 恵美

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児 童 生 徒 の 状 況			
よ さ	漢字の読み書きや数学の基本的な計算力についてはある程度定着がみられる。	課 題 学力については個人差が大きく、一部の生徒では学習意欲と関連して基礎・基本の定着が不十分である。	
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
家庭学習時間を確保し、宿題や自主学習ノート、セミナーなどを毎日提出でき、その日に学んだ基礎・基本を定着させる。		関心・意欲・態度に関する評価が「B」以上の生徒が8割を超える。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
・チャレンジタイムの時間を活用し、定期的に確認テストを行い、「わかる喜び」を体験させ、学習への意欲を高める。 *中間期の見直し ・国語科において、視写をしたり、自分の思いを綴る時間を確保する。		・チャレンジタイムを月1回は必ず実施し、基礎・基本の確認を行う。	
達成状況を踏まえた改善事項			

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況			
よ さ	「基礎的・基本的」な事項についての発問に関しては、積極的に発表し、まじめに授業に取り組むことができる。	課題	課題に対し、「基礎的・基本的」な事項を用いて、言葉や文章で表現したり説明したりすることに課題がある。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
授業の中で、考えさせる場、表現させる場を設定し、筋道を立て論理的に、自分の考えや意見を積極的に発言できる。		表現力に関する評価が各学期ごとに「B」以上の生徒が8割を超える。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
<ul style="list-style-type: none"> ・「思考力・判断力」を高める授業を意識して展開する。 ・研修によりお互いの手立てを交換する。 *中間期の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・各学級に新聞を置き、新聞を読む機会を増やし、帰りの学活で新聞の内容から1分間スピーチを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・考える場面・表現する場面を取り入れた授業を展開する。 ・全ての教科で公開授業をする。 	
達成状況を踏まえた改善事項			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況			
よ さ	毎朝大きな声で挨拶ができ、登校後の朝の読書タイムも定着してきている。	課題	与えられた課題に対しては、おおむね取り組んでいるが、自らが課題を見つけ、解決する取り組みは十分でない。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着を図り、自主的に課題を見つけ、取り組むことができる。 ・読書を自ら意欲的にすることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートを全員提出できる。 ・自主的に読書する生徒が8割を超える。 	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに「家庭学習の手引き」をもとに学習を振り返り、自ら具体的な課題や時間を設定し、目標を持たせて取り組ませる。 *中間期の見直し <p>家庭において、テレビや携帯電話、ゲー</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で設定した家庭学習目標時間を7割以上の生徒が達する。 	

ムなどに費やす時間が多いため、メリハリのある時間の配分ができる生活ができるように取り組ませる。

- ・学校での読書が、家庭においても継続できるように働きかけ、読書調べ等の結果を公表し喚起を促す。
- ・テストの無回答をなくすように、粘り強く取り組みができるよう働きかける。

達成状況を踏まえた改善事項